

自己の生き方についての考えを深める子どもを育てる道徳科学習指導 ～多様な感じ方や考え方を引き出す発問と対話活動の工夫を通して～

第六学年菊組 道徳科学習指導案

指導者 松隈 晶平

主題名 相手を理解する心 B [相互理解, 寛容]

「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること」

教材名 「ぼくだって」 (日本文教出版6年生)

指導観

- 本学級の子供たちは、これまでに、相手の立場に立って考え、許そうとする心や自分と異なる考えや意見であっても尊重しようとする心を大切にしながら生活することができるようになってきている。「友達が失敗や過ちを犯したときに許せたか」という質問に対し、「許せた」子供は34名中32名、「許せなかった」子供は17名であった。頭では分かっている、実際に行動できていないという実態が明らかになった。そこで、寛容の価値に対する理解が深まるこの期に本主題を取り上げる。そして、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することで得られるよさや謙虚な心、広い心で受け止めて、適切に対処することができるようにする。このことは、問題場面から、物事を多面的・多角的に考えることで、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う子供を育てる上からも意義深い。
- 相互理解とは、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、自分と異なる意見についても背景を考えながら傾聴することで互いに分かり合い、自他の人格を認め合って、尊重し合うことである。寛容とは、自分と異なる立場や考え方、感じ方などに出合ったときに、それを否定したり、敬遠したりすることなく、心を広くして相手の言動を受け入れることである。本主題に関しては、第5学年後期で、自分と異なる意見や立場に対して、否定することなく、相手を受け入れる寛容さをもつことが大切であると学習してきている。本主題では、これらの上に立って、「自分にも同様のことがある」と受け止める謙虚さの価値を理解できるようにする。このことは、第6学年後期の広い心をもつことで得られる価値を理解する学習へと発展していく。
- 本主題の指導に当たっては、相手を理解するには、相手の状況や立場を受け止めたり、自分にも同様のことがあると思って相手を知ろうとしたりする謙虚さをもつことが大切であるとわかり、謙虚さをもって相手を許そうとする態度を育てることができるようにする。そのために、教材「ぼくだって」を取り上げる。本教材は、試合で負けたことを責めるぼくに対し、リョウタはヒサシが見えないところで頑張っていたという状況や努力に気付いて失敗を受け止める。そこから、ぼくがヒサシに対する謙虚さをもてた話である。特に本時指導に当たっては、まず、導入段階では、友達の失敗を許せない自分がいるという問題意識をもたせて、めあてを話し合うことができるようにする。次に、展開段階では、中心場面のぼくの心情を「対自分」「対相手」といった視点で、多様な感じ方や考え方について対話することができるようにする。最後に、終末段階では、自我関与性・相互作用性・未来志向性の観点から振り返りをして、自己の生き方についての考えを深めることができるようにする。

計画 (1時間+課外)

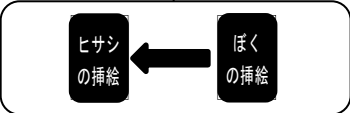

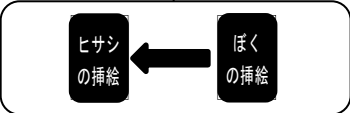

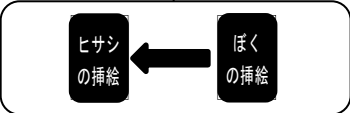

- 日常生活において、寛容の価値に関わるこれまでの考え方を整理させ、傾向性を捉えさせる。—————課外
- 1 教材「ぼくだって」を読ませ、寛容の価値について話し合わせる。—————1本時
- 寛容の価値について考えながら生活しようとする子供のよさを認め合わせ、意欲の継続を図らせる。—————課外

ねらい1 相手を理解するには、相手の状況や立場を受け止めたり、自分にも同様のことがあると思って相手を知ろうとしたりする謙虚さをもつことが大切であるとわかり、謙虚さをもって相手を許そうとする態度を育てる。

2 教材「ぼくだって」において、中心場面におけるぼくの心情から表出された「対自分」「対相手」といった視点を人物と矢印で可視化した図を使い、自他の考えを比較する対話活動を通して、寛容の価値を追求する。

準備 読み物教材、挿絵、ワークシート、学習者用端末

過程

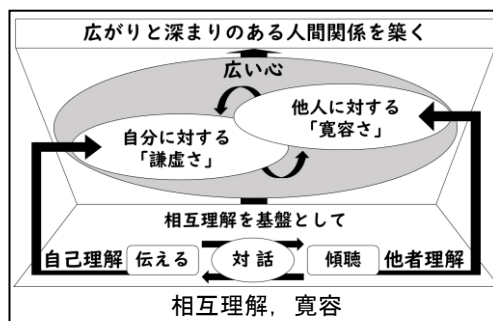
段階	学習活動と予想される子供の反応	教師の具体的な支援																				
導入	<p>1 友達の失敗に関するこれまでの経験を想起し、寛容の価値に関する本時のめあてを話し合う。</p> <p style="text-align: center;">大切にしているものを壊されたとき</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border: 1px dashed black; padding: 5px;">【許せるとき】 謝ってくれたから。</td> <td style="width: 50%; border: 1px dashed black; padding: 5px;">【許せないとき】 謝ってくれなかったから。</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">心から相手を許すために、どうすればいいのだろうか。</td> </tr> </table> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">相手の失敗を心から許すには、どんな心が大切か考えよう。</p>	【許せるとき】 謝ってくれたから。	【許せないとき】 謝ってくれなかったから。	心から相手を許すために、どうすればいいのだろうか。		<p>○ 許すことが大切と思っていながら許せない自分がいるという問題意識をもたせるために、「大切にしているものを壊されたとき」という状況を提示し、「心から許せる自分と許せない自分のどちらがいいですか」と発問する。</p>																
【許せるとき】 謝ってくれたから。	【許せないとき】 謝ってくれなかったから。																					
心から相手を許すために、どうすればいいのだろうか。																						
展開	<p>2 教材「ぼくだって」を基に、ぼく的心情を共感的に追求し、寛容の価値を明らかにする。</p> <p>(1) 控室でヒサシに腹を立てるぼくに共感し、ヒサシの置かれた状況や努力に気付いていないぼくの弱さを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ごめん」も何も言っていないから絶対に許せない。 ・ミスして負けた原因をつかったのに、責任を感じていない。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">ぼくは、負けた結果やヒサシの態度に腹を立て、ヒサシを責めていた。</p> <p>(2) リョウタの話やぼく自身の体験を基に、ヒサシに対するぼく的心情の変化について話し合い、寛容の価値を理解する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 5px;">リョウタからヒサシの努力を聞いたぼく</td> <td style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 5px;">ヒサシと同じような状況を体験したぼく</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">見えないところでヒサシも一生懸命頑張っていたと気付いたから。</td> <td style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">ヒサシと同じような失敗をしたときに、試合に負けたときのヒサシの気持ちがわかったから。</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">ぼくは、心からヒサシを許すことができた。</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 50%;">対相手</td> <td style="width: 50%;">対自分</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 10px;">  </td> <td style="border: 1px solid black; padding: 10px;">  </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">自分だったら、どちらが難しい？</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">相手の結果ばかり見てしまうので、相手の状況や立場、思い、努力を受け止めることが大切だと思う。</td> <td style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">決めつけたり、考えを押し付けたりするので、自分に置き換えて相手を知ろうとすることが大切だと思う。</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">二つの矢印は、どういう関係なの？</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のことも自分のこともどちらも必要で、どちらかだけだと心から相手を許すことができない。 ・自分に置き換えて考えることで、相手のことも考えることができるようになる。 </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">相手の状況や立場を受け止めたり、自分に置き換えて、相手を知ろうとしたりする心をもつことが大切。</td> </tr> </table>	リョウタからヒサシの努力を聞いたぼく	ヒサシと同じような状況を体験したぼく	見えないところでヒサシも一生懸命頑張っていたと気付いたから。	ヒサシと同じような失敗をしたときに、試合に負けたときのヒサシの気持ちがわかったから。	ぼくは、心からヒサシを許すことができた。		対相手	対自分			自分だったら、どちらが難しい？		相手の結果ばかり見てしまうので、相手の状況や立場、思い、努力を受け止めることが大切だと思う。	決めつけたり、考えを押し付けたりするので、自分に置き換えて相手を知ろうとすることが大切だと思う。	二つの矢印は、どういう関係なの？		<ul style="list-style-type: none"> ・相手のことも自分のこともどちらも必要で、どちらかだけだと心から相手を許すことができない。 ・自分に置き換えて考えることで、相手のことも考えることができるようになる。 		相手の状況や立場を受け止めたり、自分に置き換えて、相手を知ろうとしたりする心をもつことが大切。		<p>○ 表面的な結果や態度だけを見て、ヒサシを責めるぼく的心情の弱さを捉えさせるために、「なぜ、ぼくは控室でヒサシにだんだん腹が立ってきたのですか」と発問し、全体交流する場を設定する。</p> <p>○ ヒサシに対するぼく的心情の変化を捉えさせるために、「なぜ、ぼくは、『また一緒に練習をしよう』とヒサシに言ったのですか」と発問し、考えを表出する場を設定する。</p> <p>○ 「対自分」「対相手」といった視点で自他の考えを整理させるために、「いろいろな考えが出ましたが、違いはありますか」と発問する。</p> <p>○ 「対自分」「対相手」といった視点から多面的に考えさせるために、「『失敗をしていないのに自分が失敗をすることもあって許す』のと、『相手が一生懸命頑張っていたことに気付いて許す』のでは、どちらが難しいですか」と発問し、グループや全体で交流する場を設定する。</p>
リョウタからヒサシの努力を聞いたぼく	ヒサシと同じような状況を体験したぼく																					
見えないところでヒサシも一生懸命頑張っていたと気付いたから。	ヒサシと同じような失敗をしたときに、試合に負けたときのヒサシの気持ちがわかったから。																					
ぼくは、心からヒサシを許すことができた。																						
対相手	対自分																					
																						
自分だったら、どちらが難しい？																						
相手の結果ばかり見てしまうので、相手の状況や立場、思い、努力を受け止めることが大切だと思う。	決めつけたり、考えを押し付けたりするので、自分に置き換えて相手を知ろうとすることが大切だと思う。																					
二つの矢印は、どういう関係なの？																						
<ul style="list-style-type: none"> ・相手のことも自分のこともどちらも必要で、どちらかだけだと心から相手を許すことができない。 ・自分に置き換えて考えることで、相手のことも考えることができるようになる。 																						
相手の状況や立場を受け止めたり、自分に置き換えて、相手を知ろうとしたりする心をもつことが大切。																						
終末	<p>3 自分の感じ方や考え方を見つめ直し、寛容について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを考えるのはやはり難しいと思った。 【自我関与性】 ・「気付いていない相手の思いも考える」という意見に納得できた。 【相互作用性】 ・これからは、相手の思いに気付いて受け止めていきたい。 【未来志向性】 	<p>○ 自己の生き方についての考えを深めさせるために、「自我関与性」「相互作用性」「未来志向性」の三つの観点を基に、学習を振り返る場を設定する。</p>																				

<p>概要・状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 勝てばサッカー全国大会初出場の試合。絶対的なエースのリョウタはこの大会を最後に、転校してしまう。 ○ 後半残り二分。ヒサシのミスでゴールを許し、ぼくたちのチームは負けてしまった。 ○ ヒサシは試合の初めからミスを連発し、審判に文句を言って、警告まで受けていたため、雰囲気は悪かった。 	
<p>人間的な弱さ(相手のことを分かってほしい)</p>	<p style="text-align: center;">ヒサシ</p> <p>静まり返った控室。時折、すすりなく声をする。重苦しい空気の中、ヒサシはもくもくと着替えていた。</p> <p>ぼくだって…。ぼくだって…。</p> <p>ふりしぼるようにヒサシは言った。そして、そのまま荷物を持って控室から飛び出した。</p> <p style="text-align: center;">ヒサシの挿絵 ヒサシ</p>	<p style="text-align: center;">ぼく</p> <p>なんでおまえがイライラしているんだ。おまえのせいで雰囲気が悪くなったんだ。わかっているのか。</p> <p style="text-align: center;">ぼくの挿絵 ぼく</p> <p>誰もヒサシを追いかけなかったし、誰もぼくを責めなかった。</p> <p style="text-align: center;">感情的になり、ヒサシのことを理解しようとしないう「ぼく」</p>
<p>回転軸①(寛容の価値をもつ人物との出会いできっかけを見付ける)</p>	<p style="text-align: center;">試合後の様子 の挿絵</p> <p>ゴールから一番近くを守るヒサシがよくゴール近くまで来ていたよ。それだけ一生懸命だったんだ。ヒサシはヒサシなりに、ミスを取り返そうと必死だったんだな。それを上手く助けられなかったぼくにも負けた原因はある。</p> <p style="text-align: center;">【リョウタ】</p>	<p>帰り道、ぼくは、リョウタと一緒にいた。</p> <p style="text-align: center;">ぼくの挿絵 ぼく</p> <p>最高の試合ができなかったのが悔しい。ヒサシがしっかりしていれば。またイライラしてきた。</p> <p>ぼくも今日の試合は悔しい。絶対に勝てる相手だった。ヒサシに腹を立てる気持ちもわかる。今日のヒサシはミスばかりで、まったくだめだった。</p> <p style="text-align: center;">ヒサシのことも自分のことも理解しているリョウタの姿をみた「ぼく」</p>
<p>回転軸②(自身の体験から寛容の価値に気付く)</p>	<p>次の練習日、ヒサシは来なかった。</p> <p>しかたないだろう。ぼくだって、がんばっているのだから。</p> <p>ヒサシも「ぼくだって…」と繰り返し言っていた。ぼくがヒサシと同じ状況なら…。控室で最後に見たヒサシの表情が胸に広がった。手にぎゅっと力が入った。</p> <p style="text-align: center;">ぼくの挿絵 ぼく</p>	<p>なかなか調子が上がらず、ミスを連発してしまった。監督に怒られて、ますますひどくなり、ミスを取り返そうとすればするほど失敗し、チームメートからもからかわれた。</p> <p style="text-align: center;">ヒサシの状況を理解し、自分の関わり方を後悔する「ぼく」</p>
<p>価値覚醒(寛容の価値につながる行動をとる)</p>	<p>練習が終わり、ぼくは真っ先に着替えてヒサシの家まで自転車を走らせた。</p> <p>ぼくのせいで負けたんだ。みんなに合わせる顔がない。</p> <p>ヒサシは、はっと顔を上げた。</p> <p>ヒサシは、泣きそうな顔でぼくを見た。</p> <p style="text-align: center;">ひさしとぼくが向き合う挿絵</p>	<p>ヒサシだけのせいじゃない。ヒサシは試合中、一生懸命だったんだ。それもわからず、ぼくはヒサシを責めるだけで何もしていなかった。ごめん。</p> <p>次の練習日、いつも以上に張り切ってボールを追いかけるヒサシとぼくがいた。</p> <p style="text-align: center;">ヒサシのことを理解し、広い心で受け止めることができた「ぼく」</p>

B 主として人との関わりに関すること〔相互理解、寛容〕についての内容分析

【相互理解、寛容の概要】

- 相互理解とは、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、自分と異なる意見についても背景を考えながら傾聴することで互いに分かり合い、自他の人格を認め合って、尊重し合うことである。
- 寛容とは、自分と異なる立場や考え方、感じ方などに出合ったときに、それを否定したり、敬遠したりすることなく、心を広くして相手の言動を受け入れることである。



◇各学年段階における内容について

〔中学年〕自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。

- ・「考え」とは、思考を働かせる事や思考を働かせたことで、導き出された結論や主張といった論理的な思考である。
- ・「意見」とは、ある問題への主張に対して、自らの思いを語る事で人の過ちを指摘し、忠告することである。
- ・「相手に伝える」とは、働きかける対象に対して、ある事柄を言葉や身振りといった手段で知らせることである。
- ・「理解する」とは、知識が個人の中において、より深められ、定着した状態で、他人の気持ちや立場を察することである。
- ・「大切にすること」とは、対立する忠告であっても、拒否することなく、受け入れて重んじることである。

三年生	主題名：相手とわかり合って 教材名：心をしずめて	
	感情的にならずに、相手の言動を理解しようとする大切さ。	
四年生	主題名：相手のことを考えて 教材名：ちこく	主題名：相手の意見を聞く 教材名：にぎりしめた いね
	相手が置かれている立場や状況を理解することの大切さ。	自分と異なる意見について、その背景にあるものを考えることの大切さ。

3年生：相手の言動を理解しようとする大切さ → 4年生：相手の立場や状況、異なる意見の背景を考える大切さ

〔高学年〕自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。

- ・「謙虚な心」とは、相手を敬う気持ちを持ち、自身を過度に誇示することなく、相手から学ぼうとするような控えめな態度で接しようとする精神である。
- ・「広い心」とは、他人の意見を傾聴したり、他人の立場を尊重したりして、他人の過ちに対して寛容であるような精神である。広い心は、寛容さと謙虚さが一体となったときに、生まれるものである。
- ・「立場」とは、置かれている状況から生じる考え方や観点、その人が置かれている地位や境遇である。
- ・「尊重する」とは、対立する忠告であっても拒否することなく、価値あるものとして受け入れることである。

五年生	主題名：広い心 教材名：折れたタワー	主題名：相手の立場も大切に 教材名：すれちがい
	「誰にでも失敗はある」と相手の立場に立ち、相手の失敗を受け止める謙虚な心構えをもつことの大切さ。	広い心で、自分と異なる意見や立場を尊重する心構えをもつことの大切さ。
六年生	主題名：相手を理解する心 教材名：ぼくだって	主題名：広く受け入れる心 教材名：ブランコ乗りとピエロ
	相手の状況や立場を受け止めたり、自分に置き換えて相手を知ろうとしたりする謙虚さの価値に気付くことの大切さ。	広い心で受け入れることで、違いを生かしたよりよいものが生まれるという価値に気付くことの大切さ

5年生：謙虚さと寛容さ（広い心）をもつ心構えの大切さ → 6年生：謙虚さと寛容さ（広い心）をもつ価値に気付く大切さ